

I 団体の概要

令和2年7月1日現在

団体名	公益財団法人姫路市文化国際交流財団					
団体所管課	観光スポーツ局 観光文化部 文化国際課					
設立	平成元年(1989年) 7月 1日					
資本金	773,706 千円	市出資金	100,000 千円 12.92%			
設立目的	文化国際都市姫路を構築するため、市民の文化活動事業の振興と地域ぐるみの国際交流事業を推進し、もって魅力ある地域文化の創造と国際社会の発展に寄与することを目的とする。					
寄附行為(定款)に掲げる事業	(1)文化の創造・育成及び文化活動に関する事業 (2)地域住民の文化・国際教養の普及啓発に関する事業 (3)海外諸都市との友好交流に関する事業 (4)文化・国際交流に関する調査資料及び情報の収集並びに刊行物の発行提供に関する事業 (5)外国人の受入体制の整備及び在住外国人との交流に関する事業 (6)文化関係団体及び国際交流関係団体の連携及び支援に関する事業 (7)指定管理者制度に基づく公共施設及びそれに準ずる施設の管理運営に関する事業 (8)その他設立目的を達成するために必要な事業					
主 な 事 業	事業名	R3年度事業費 (予算額)	事業概要			
	文化振興事業	170,113 千円	音楽のまち・ひめじ事業、市民文化高揚事業、総合文化雑誌バンカル出版、市受託事業など			
	美術工芸館普及事業	35,890 千円	書写の里・美術工芸館において、企画展や体験教室などの学芸普及事業、売店事業など			
	国際交流事業	45,459 千円	地域住民の国際教養普及啓発事業、海外諸都市との友好交流に関する事業、国際交流情報の収集と提供など			
	施設管理事業	256,817 千円	文化センター、キャスパホール、パルナソスホールの施設管理運営			
役 職 員 数 (注1)	役員数	常勤(注2) (うち市派遣) 1人 (0人)	非常勤 17人	職員数	一般職 (うち市派遣) 13 (人)	嘱託・臨時等 22人
	役員平均年齢(常勤)	-	役員平均年収(常勤)	-		
	職員平均年齢(一般職)	40.15歳	職員平均年収(一般職)	5,610 千円		
年度	H30	R1	R2(決算見込み)			
市 か ら の 財 政 支 出 等	委託料	318,191 千円	342,062 千円	350,074 千円		
	補助金	142,203 千円	155,968 千円	179,409 千円		
	貸付金 (年度末残高) 損失補償の対象 となる借入金					
財 務 概 況	当期収入	575,841 千円	571,601 千円	657,908 千円		
	当期支出	575,771 千円	588,785 千円	655,243 千円		
	当期収支差額	70 千円	△17,184 千円	2,665 千円		
	次期繰越収支差額	30,887 千円	13,703 千円	16,368 千円		
	総資産	953,919 千円	939,931 千円	939,931 千円		
	総負債	100,417 千円	84,551 千円	111,877 千円		
	当期正味財産増減額	88,605 千円	1,878 千円	27,326 千円		
	正味財産	853,502 千円	855,380 千円	828,054 千円		
ホームページアドレス	https://himeji-culture.jp https://himeji-iec.or.jp					

注1：役員平均年齢、役員平均年収、職員平均年齢、職員平均年収には、市からの派遣職員は含まない。

注2：常勤役員には、週29時間以上勤務する常勤的な非常勤役員を含む。

注3：常勤役員は1名のみのため、役員平均年齢及び平均年収は個人情報保護の観点から非公開とします。

II 基本方針

1. 団体の前計画期間（平成28年度～令和2年度）における主な取組実績

【文化振興】

芸術監督の招聘、音楽プロデューサー、演劇アドバイザーの導入により企画制作能力の向上を図るとともに、「姫路市文化振興ビジョン」の実現に寄与すべく、事業の見直しを行った。

- ・文化振興事業のうち「パルナソス音楽祭」を廃止して音楽に係る継続事業を整理統合し、「音楽のまち・ひめじ事業」「市民文化高揚事業」「パルナソス楽器普及事業」「パルナソス育成普及事業」「交響詩ひめじ普及事業」と分類し、より目的を明確に事業再編を行った。
- ・芸術監督、音楽プロデューサーにより、民間業者には成し得ない異なるジャンルのアーティストのブックイングを行い、姫路限定の「シンフォニックプリンセス」公演を実現した。
- ・長期的な文化的情操を育み次世代の文化芸術の担い手を育むため、若年層に文化芸術活動への扉を開き、自己表現やコミュニケーションを通じた心の成長を育む「姫路市ジュニアオーケストラ」「キャスパシアタープロジェクト」を立ち上げた。
- ・姫路市のビジョンの展開に沿うべく「ル・ポン国際音楽祭実行委員会事務局」業務への参画や、「音楽のまち・ひめじ事業」などを新たに受託するなど、業務量の増大に対応した。
- ・参加者に訴求すべく事業及びPRの質的向上に努め、職員が専門性の高い分野で企画制作力やノウハウを身に着けるべく、研修及び調査活動に取り組んだ。
- ・姫路市以外の助成金や補助金の獲得に積極的に取り組み、事業を実施した。
- ・姫路市文化コンベンションセンター開館を見通し、今までに培ったノウハウを生かして事業を実施するため、柔軟で効率的な人員の配置となるよう、随時組織の見直しを行った。
- ・姫路市書写の里・美術工芸館のベテラン学芸員の退職により、地域文化遺産の調査研究と保存継承のため、新卒の学芸員資格取得者を嘱託員として採用し、地域の工芸文化の調査研究、普及啓発に寄与する人材へと育成すべく努めた。
- ・令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症拡大により社会全体が文化活動に対して委縮し、多くの事業を中止せざるを得なかった。そのため社会状況の変化を注視し、普及啓発や育成のための新しいツールとしてインターネットを活用した情報発信に積極的に取り組み、当初の事業目的を維持しながら展開した。

【国際交流】

- ・令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症拡大により社会全体が国際交流に対して委縮し、多くの事業を中止せざるを得なかった。そのため社会状況の変化を注視し、インターネットを利用した情報発信や姉妹都市交流に取り組む、事業目的を維持しながら展開した。
- ・姫路の在住外国人の生活を支援すべく、従来の姫路市の補助金に加えて兵庫県国際交流協会の助成金を受けてベトナム語生活相談の日時を拡充した。その後外国人相談センター業務を受託し、より広い言語に対応して相談業務を行った。
- ・在住外国人向けの日本語講座において、新たに中級クラスを設置し、参加者のレベルに応じた講座の提供を行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による姉妹都市交流の中止の代替として、写真展やインターネットを使った交流事業、広報ひめじの記事翻訳や映画上映会等を企画し、より多くの市民に国際交流による相互理解を広めるべく活動を行った。

2. 団体を取り巻く環境・経営上の課題

【専門的業務に適性を有する人員の採用と育成について】

社会の就職状況の改善により、文化芸術についての基礎的素養を有する人材の採用が年々困難になっている。特に令和元年度・2年度には、正規職員が2名退職しその補充として嘱託員・臨時職員の募集を行ったが、応募者は募集のたびに減少し、経験者からの応募もなく、未経験者を採用し補助業務から指導しているため、既存職員の超過労働時間に負担が跳ね返り、人件費を圧迫する要因となっている。

働き方改革により事業主は労働者に適切に休日・年次有給休暇を与えることが求められており、これ以上職員の負担が増せば適正な法人運営や事業実施に支障をきたすことを危惧せざるを得ず、また定年を待たず退職者が相次いでいることから、労働環境が健全であるとは言い難い状況であることを如実に表している。

今後の人材確保と適切な育成、業務配分は大きな課題である。

【自主財源の確保について】

当財団は、民間事業者が実施することが困難な文化芸術事業や国際的な多文化に触れる機会を提供する事業を実施しており、事業収入も限られており財政的に姫路市補助金への依存度が高い。そのため、振興事業収入の増加、新規業務の受託、姫路市以外からの補助金・助成金や民間からの寄付金の獲得等による財源の確保に努めている。しかし、令和3年に閉館する姫路市文化センター指定管理業務がなくなることによる受託収入の大幅減と、新型コロナウイルス感染拡大後の社会経済情勢から、事業集客と入場料等収入の減少が見込まれるほか、民間からの共賛金などの収入も多くは望めず、財務運用上困難な状況が続くことが予想される。

財産運用についても、姫路市からの指導により元本確保を重視した実直な運用を行っており、大幅な資金運用益の増は見込めない状態である。

【新型コロナウイルス感染拡大について】

令和2年2月以降、感染症拡大により新しい文化活動や国際交流が停滞するとともに、感染防止策への取り組みの必要から、従来の形での事業実施の見通しが立てにくい状況である。新しい生活様式に適応した事業への転換が求められている。

また、当財団内のデジタル化が進んでおらず、クラウドを取り入れた在宅勤務の環境整備などは大きな課題となっている。

3. 団体の将来像（ビジョン）

姫路市が策定する文化振興ビジョンの方向性を踏まえ、姫路市の施策に基づき、足並みをそろえて事業企画や運営を行い、姫路市の文化施策・国際交流推進の実施主体として、積極的に役割を果たしていく。

(1) 市が直接行うには効率的でなく、かつ民間が担えない分野において、長年蓄積した専門知識やノウハウを活用し、長期継続的な視野に立った持続可能な事業計画を立案する。長年施設管理と文化振興事業の中心となってきた姫路市文化センターに代わり、姫路市文化コンベンションセンターを中心に、市内各所で市民に参加を訴求するよう文化振興事業を整理再編して実施する。

①新しい生活様式や若い年齢層の生活スタイルに即した事業の実施による、播磨地域を基盤とする次世代の文化人・観客の育成と文化芸術普及（学生や子どもを対象としたアウトリーチ、ワークショップなど各種講座、ジュニアオーケストラやキャスパシアタープロジェクト等）

②伝統芸能、播磨地域の伝統芸能や美術工芸の保存顕彰、普及啓発の保持の視点に立った継承普及（歌舞伎や文楽、能・狂言、古楽、工芸館学芸業務等）

③民間が持たないノウハウや繋がりを生かした大型鑑賞事業の企画制作、実施（芸術監督企画、財団独自企画事業、ツアー、招致公演等）

(2) 施設管理業務において、経費削減と適切な保守管理を行い、市民のニーズに寄り添う文化活動の場として運営を行うと同時に、施設の特性を踏まえた効果的な文化振興事業を提供する。

①本格的なパイプオルガンを備えた播磨随一の音楽専用ホールであるパルナソスホールにおける楽器普及事業、育成普及事業、交響詩ひめじ普及事業

②能楽、邦楽に対応可能なホールである多目的ホールであるキャスパホールにおける能、狂言、落語等の伝統芸能事業

(3) 姫路市書写の里・美術工芸館において、播磨地域を中心とした伝統工芸への理解と継承に重点を置いた調査研究を進め、開館以来蓄積した人材とのつながり、知識、技術を活用し、展示やイベントを通して市民への普及を行う。指定管理者制度導入時には、指定管理者として管理と学芸普及が一体となった効率的・総合的運営を目指す。

(4) 住民や子どもたちには国際理解を深める機会を、在住外国人には生活に寄り添った生活相談と日本語の習得の機会を提供し、市民と在住外国人が共に国際理解を深め、姫路市の国際都市としての成熟に寄与する。

4. 団体の改革の方向性

- ・姫路市と緊密に協力・連携し、共に文化振興及び国際交流推進の役割を実直に担っていく。
- ・姫路市文化コンベンションセンターほか市内各種会場における事業の実施にむけた事業部門の能力向上のため、長期的視点による専門的人材の職員採用、育成、研修を行う。
- ・事業の目的と効果、参加者アンケートや市民のニーズを踏まえ、事業の見直しを継続して実施する。
- ・国、県及び民間の補助金・助成金等の外部資金導入を促進すると共に、公演事業の集客率向上等により自主財源の確保に努め、財務体質の強化を図る。
- ・指定管理者施設においては、使用料の収入増や施設管理に係るコストの削減に努め、適正な経費執行と運営の効率化に取り組む。

(1) 未来につなげる「レガシー」（＝市民だれもが文化芸術を楽しみ、参加し、活動できるまち）を創出するため、姫路市と共にソフト主体のまちづくりに取り組む。市民に広く文化芸術活動への理解を深まるよう参加を促し、文化的な賑わいあふれるまちづくりの一端を担う。

(2) 財団の文化振興事業においては、以下の4点を主要な柱として位置付ける。

①「育成」事業：次代を担う若手や生徒を対象とした講座や講習会、コンクールなどの事業を開催、発表の機会の創出、提供

②「普及」事業：学校と連携し、児童や生徒が楽しみながら芸術文化に出会える場の提供

③「鑑賞」事業：一流のオーケストラ演奏会など芸術性の高い大型事業に触れる機会の提供

④「交流」事業：技術の向上や興味を喚起するため、アーティスト、技術者、若手や児童生徒の交流機会の提供

なお、姫路市文化コンベンションセンターにおける事業では、播磨圏域の交流人口の集積についても意を用いる。

(3) 多文化共生都市・姫路市として、市民が国際理解を深め、異なる文化や価値観を尊重すると共に、国籍や性別を問わずすべての人々の人権が保障され共に支えあって生きていける社会の実現を目指す。

Ⅲ 健全経営に関する計画

計画期間：令和3年度～令和7年度

1. 経営目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の再編と業務体制の見直し ・プロパー職員不足を解消し、適正な職員体制の構築 ・収支健全化に向けた経営改善
目標達成に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年12月末の姫路市文化センター閉館を受けて、施設管理部門及び事業部門の組織再編、人員の再配置に取り組む。（令和3年度～令和5年度） ・財団の専門知識やノウハウの蓄積、継承が適切になされるよう、計画的な職員採用及び研修等による人材育成を図る。特に、経験者等の専門的な能力を有する人材の獲得や、他団体からの人材派遣などにより、適正な職員体制の構築を目指す。（令和3年度～令和7年度：継続実施） ・施策実施事業の拡大を前提として、国、県、市等の補助金及び民間資金の獲得を図る。また、公演事業の入場率の向上、講座受講料等の受益者負担率の見直し、他団体からの受託事業の拡充などによる自主財源の確保に努める。（令和3年度～令和7年度：継続実施） ・書写の里・美術工芸館については、早期に正規学芸員を採用し、専門知識やノウハウの継承に取り組むとともに、同館に指定管理者制度が導入される際には、これまで培ってきた知識と経験を活かして、指定管理者として選定されることを目指す。（令和3年度～）

2. 数値目標・指標

健全経営に関する数値目標	令和元年度実績値	目標値（令和7年度）
来館者数	文化センター：314,765人 キャスパホール：38,825人 バルナソスホール：47,284人	キャスパホール：45,000人 バルナソスホール：55,000人
管理経費	文化センター：178,484千円 キャスパホール：56,415千円 バルナソスホール：46,324千円	キャスパホール：57,700千円 バルナソスホール：47,300千円
主催事業の入場者数	62,815人	80,000人
自主財源比率	11.59%	20%

経営目標達成に向けた取組みの進捗状況やその成果を測るための指標

職員の年齢構成
アンケートによる事業の満足度
事業の新聞への掲載回数
姫路市以外からの寄付・補助・助成額

3. 事業運営の最適化

事業の最適化及び事業実施方法の適正化	
文化振興事業・国際交流事業全体（共通）	令和3年度の文化センター閉館後の機能移転に伴う施設管理部門の再編と同時に、事業部門を含めた財団全体の再編成の検討を実施し、令和5年度までを目途に適正な人員配置による事業実施体制の整備に努める。
音楽のまち・ひめじ事業	振興事業収入や寄付金収入の増収による自主財源の確保を目指すと共に、職員の企画制作力の向上に努め、効果の高い公演内容を実施する。また、定例化している事業においても、実施回数、公演内容、来場者の意見を踏まえて随時検証を行う。
市民文化高揚事業	振興事業収入や寄付金収入の増収による自主財源の確保を目指すと共に、職員の企画制作力の向上に努め、効果の高い公演内容を実施する。また、定例化している事業においても、実施回数、公演内容、来場者の意見を踏まえて随時検証を行う。
バルナソス楽器普及事業	バルナソスホールが所蔵するパイプオルガン、ポジティブオルガン、チェンバロの鍵盤楽器を活用した事業を開催することで、追加費用を押さえながら幅広く市民が楽器を身近に感じ、親しむ機会を届けられるよう努める。

パルナソス育成普及事業	新人・若手アーティストや演奏者の育成により、文化活動の場や公演機会を提供することは、将来的には市民が芸術文化に身近に触れる機会を拡充することにもつながるため、参加者のモチベーションを維持しながら、費用負担について調整していく。
交響詩ひめじ普及事業	様々な市の事業で「交響詩ひめじ」の演奏や合唱グループ出演の橋渡し、各種事業における演奏機会の開拓や録音音源による普及を行う。また、「交響詩ひめじ」合唱コンクール・演奏会における出演者・入場者の確保に努める。
姫路市民文化祭	出演者の高齢化や文化団体の解散が進んでいる。 各団体の意向も踏まえながら、実施形態や規模の見直しについて検討する。
友の会事業	姫路市文化コンベンションセンターの開館による組織再編を機に、時代に合った友の会のありかたや会員へのメリットの提供内容について整理検討し、よりニーズに即した形の友の会としての情報発信に努める。
文化ボランティア育成業務	芸術文化活動の活性化につながるよう、文化イベントや施設運営について登録制度による文化ボランティアの育成と充実に努める。また、文化ボランティアを通じた情報発信などにもつながるよう、より参加しやすいボランティア環境を整える。 ・ゆくゆくは美術工芸館の実施する事業におけるボランティアを募集し、市民が美術工芸館の事業に参画できる体制づくりに努める。
出版・学術研究事業	総合文化雑誌「Bancul」（年4回）の購読層を広げるため、電子書籍化を検討、研究する。 「文化情報姫路」については、ウェブサイトで無料公開しており、今後も一層の情報発信に努める。 ・地域の歴史文化や文化財を広く紹介する書籍の編集発行、学術的な論文集や報告書、紀要等の編集発行の支援を検討する。 ・地域の工芸作家の活動紹介や、学芸普及業務を通して調査研究した成果を出版物や映像資料として紹介する。 ・工芸に関するさまざまな疑問に答えるため、レファレンス業務の充実を図る。
ル・ボン国際音楽祭実行委員会事務局業務	財団が実行委員会の主たる事務局となり、アーティストの招聘事務、音楽祭当日の運用事務等を姫路市と協力して行う。労務管理上負担が大きいのが、財団の目的に沿う業務であることから、職員の労働時間負担の軽減に努めるため効率的な事務の推進に努める。
芸術文化賞選考業務	賞の創設時から財団が関わってきた業務であり、今後も播磨地域の文化芸術振興と顕彰のため、情報収集と適正な事務の執行に努める。
文化活動助成事業	重要性の高い事業として、今後も文化活動を行う市民に広く周知し、効果的な助成実施に努める。
音楽のまち・ひめじプロジェクト（委託）	財団独自の企画制作力を活用し、市民への訴求力のある事業をホール内外で実施することで、音楽のまち・ひめじプロジェクトを姫路市と共に推進していく。
美術工芸館学芸普及事業	播磨地域の伝統工芸品や工芸文化の発信拠点として、学芸員のスキルアップ、企画展等展示の質的向上に努める。
国際教養普及啓発事業	身近なコンテンツを通して異文化との共通点を発見し、地域の国際理解へとつながるよう、経費を適切に抑えてコンスタントに実施する。
海外姉妹都市友好交流事業	国際意識の高まりにより派遣希望者が募集を上回っているため、ボランティアやインターネットを活用した交流の幅を広げ、費用をかけなくても多くの生徒たちに交流事業に参加してもらえるよう工夫を行っていく。
国際交流に関する調査研究情報の収集 刊行物の発行提供事業	今後も姫路市と連携し、従来の方法以外にも、外国人ネットワーク等を通すなど多様な方法を考え、在住外国人に地域の情報をスムーズにオンタイムな発信を行っていく。
外国人受入体制整備事業	災害時の外国人に対する支援など在住外国人が必要としている情報等を把握し、関係機関と協力して、在住外国人の不安を取り除くことができるよう努める。
国際交流団体連携・支援事業	財団の公益事業にとって、ボランティアの協力は今後も必要不可欠であり、今後はボランティアに参加しやすい環境を整え、協力者を増やしていく取り組みを進める。

施設管理運営事業	姫路市文化センターの指定管理は令和3年（2021年）12月で終了する。文化センターの機能移転後は、施設管理部門を再編し、経費節減を図りながら、引き続きキャスパホール、パルナソスホールの適正な施設運営に努める。
利用者満足度の把握・改善	事業終了後にアンケートを実施し、市民の反応を確認しながら、内容の見直しを行い、事業企画に反映していく。

4. 団体運営体制の改善

(1) 執行体制

役員体制	財団運営と姫路市の総合的俯瞰的な芸術文化環境に通じた人材を適正に選任する。
職員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市の文化施策と財団の中長期的目的を踏まえ、職場内外の研修や資格取得によるスキルアップ、経験者採用を通して、専門性の高い人材の確保を行う。 ・令和3年度の文化センター閉館後の機能移転に伴う施設管理部門の再編と同時に、事業部門を含めた財団全体の再編成の検討を実施し、令和5年度までを目途に適正な人員配置による業務実施体制の整備に努める。
リスク管理の強化	<p><u>業務の有効性及び効率性</u> ：外部有識者による運営委員会を組織し、事業立案を行うとともに、ウェブサイト等での情報開示により運営の透明化を図ることにより、常に市民の目線を意識した業務運営を行う。</p> <p><u>財務報告の信頼性</u> ：定期的な市の監査を受けるとともに、常に司法書士、公認会計士、社会保険労務士の指導を受け、適切な財務管理を行う。</p> <p><u>法令等の遵守</u> ：職員に法令順守の意識を高めるための研修及び指導を行うと共に、日常業務中のチェック体制を整え、随時適正に関係法令を熟知した事業展開を行う。</p> <p><u>資産の保全</u> ：資産の分散保全を行い、ペイオフ等に対応する。</p>

(2) 人事・給与

「外郭団体の職員の給与及びその他の勤務条件に関する指導基準」への適合	働き方改革に関する研修への参加や、姫路市の指導を通して、適切に適合させている。
人材育成及び士気の高揚	職員個々の希望や職員像を鑑みつつ、管理職の指導のもと自主的に職務に取り組み成長する場とサポート環境を整える。一人ひとりが専門業務にあたるプロとしての意識を高く持つよう、職場内外での研修や指導を行い、計画的、段階的な能力の開発と育成を行う。

(3) 財務管理

収入確保の取組み	各種助成金、補助金の情報を収集し、積極的に応募する。また、公益財団法人への寄付控除の優遇制度と財団の芸術文化の独自性や価値をPRし寄付につなげていく。
基本財産等の運用	国債及び定期預金等、元本の確保を最優先として確実な運用を行っている。ペイオフ対策として、定期預金は分散させている。

5. 財務状況の見通し（試算）

年度		R3	R4	R5	R6	R7	
財	指定文化事業 文 化 管 理 セ ン タ ー	当期収入	135,077千円				
		当期支出	135,077千円				
		当期収支差額	0千円				
		次期繰越収支差額	0千円				
	指定管理事業 キ ャ ス パ ー ホ ー ル	当期収入	57,451千円	57,451千円	57,451千円	57,451千円	57,451千円
		当期支出	57,451千円	57,451千円	57,451千円	57,451千円	57,451千円
		当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
		次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	管理受託事業 パ ー ソ ン ス ホ ー ル	当期収入	50,808千円	50,808千円	50,808千円	50,808千円	50,808千円
		当期支出	50,808千円	50,808千円	50,808千円	50,808千円	50,808千円
		当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
		次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
補助金事業 補 助 金 振 興 業	当期収入	448,017千円	359,969千円	274,676千円	186,122千円	186,122千円	
	当期支出	498,568千円	359,969千円	274,676千円	186,122千円	186,122千円	
	当期収支差額	△50,551千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	次期繰越収支差額	581千円	581千円	581千円	581千円	581千円	
受託事業 受 託 事 業 振 興	当期収入	22,087千円	22,087千円	22,087千円	22,087千円	22,087千円	
	当期支出	22,087千円	22,087千円	22,087千円	22,087千円	22,087千円	
	当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
概 学 芸 業 工 務 受 託 館	当期収入	37,186千円	37,186千円	37,186千円	37,186千円	37,186千円	
	当期支出	37,186千円	37,186千円	37,186千円	37,186千円	37,186千円	
	当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
国際交流事業 国 際 交 流 事 業	当期収入	68,393千円	68,393千円	68,393千円	68,393千円	68,393千円	
	当期支出	68,393千円	68,393千円	68,393千円	68,393千円	68,393千円	
	当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
況 合 計	当期収入	819,019千円	595,894千円	510,601千円	422,047千円	422,047千円	
	当期支出	869,570千円	595,894千円	510,601千円	422,047千円	422,047千円	
	当期収支差額	△50,551千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	次期繰越収支差額	581千円	581千円	581千円	581千円	581千円	
	総資産	939,931千円	883,012千円	883,012千円	883,012千円	883,012千円	
	総負債	84,552千円	84,552千円	84,552千円	84,552千円	84,552千円	
	当期正味財産増減額	-56,919千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	正味財産	798,460千円	798,460千円	798,460千円	798,460千円	798,460千円	